



日本初！ 空港内で保冷ドーリーの運用を開始します

～医薬品輸送のオンリーワン空港を目指した関西空港の物流戦略～

8月21日(火)、関西国際空港で日本の空港では初めてとなる、温度管理が出来る搬送具(ドーリー)の運用を開始します。

医薬品は航空輸送のスピード、信頼性ととも、温度管理を厳密に徹底した輸送が求められており、世界的にも「コールドチェーン輸送」「クールチェーン輸送」と呼ばれる取り組み、輸送方法の開発が盛んになっています。

当搬送具の導入により、これまで温度管理が出来なかった機側⇄上屋間についても温度管理が出来るようになり、合わせて2010年9月30日に運用を開始した医薬品専用共同定温庫「KIX-Medica」を利用することにより、空港内の完全な温度管理が実現します。

記

1. 運用開始日 2012年8月21日(火)
2. スペック
 - ・160cmまでの高さの88インチ//96インチサイズパレット1枚または、LD3コンテナ1台搭載可能
 - ・20～25℃を約2時間保持可能
3. 運用事業者 CKTS 株式会社
4. その他特徴 エアライン様ないしはフォワーダー様からのご依頼により利用可能
5. お披露目会
8月21日(火)14:00よりプレスの皆様向けに保冷ドーリーのお披露目会を実施します。
取材申し込みについては広報グループまでお問い合わせください。(072-455-2201)

※当事業は、国際物流戦略チームによる「平成23年度関空物流ニュービジネスモデル」認定事業です。

